

栄八通信

武雄市議会だより

(Web版) 始めました

http://ei-8.info/

第63号



武雄市議会議員 宮本栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

H28年1月4710月発行

市民の選択も必要

合併特例債△30億円

新武雄市・合併の最大のメリツトは、合併特例債で、借入金の70%を国が後年に負担してくれる。現在、武雄市が、学校改築や主要道路整備が大きく進んでいるのは、この恩恵。

この特例債を武雄市は、173億円の利用が可能。しかし、市は、半分の86億円を、期間がH18～H27年の10年間で活用する計画。

ただ、私は、他の道路債や教育債は、50%程度の国の補助で、それを使うよりも、特例債を全額使用すべきと当初より主張してきた。

中国の地震からの耐震問題で庁舎建替話が出て来た。ちょうど国が特例債の活用期限を5年間H32年まで延長したのに合わせ、武雄市も全額の173億円活用に変更し、庁舎建設資金の目途が立った。

一方、見当が付かなかった、庁舎の建設金額が43億円で35億円を合併特例債を活用する計画をネットまで最近知った。

一方、H26年度末の特例債の残額は81億円で、H27年度でどれだけ使用するかの見込みが26億円と判明して、私は、愕然とした。

要は、81億円から、26億円を引くと、H28～H32年の5年間で利用できる特例債は、55億円となる。この、55億円から、新庁舎の35億円を引けば、20億円の残となる。

市民の方から見れば、まだ20億円も、残っている様に見え、また、道路や、武雄北中や北方小等の学校改築の事業を終了するまでに、年間10億円程度は必要で、H28～H32年の5年間で50億円と試算できる。

すると、合併特例債の庁舎建設費支払後の残額20億円から、50億円を引くと30億円の不足となる。そうならば、前市長時代に、特例債を利用して実施されると思っていた、文化体育館の建設についても、再考して行かざるを得ない様な状況も生まれて来た。

現在、文化体育館の計画は、H28年のアセットマネジメント計画を見てからの理由で実施は先送り。ただ、先のアセットの他市の例をみると、個別の事業に対する、実施や中止を示すものでなく、何年から何年の10年間は、人口減を見越して、施設を20%縮減するなどの総量の将来計画と見る。

だから、文化体育館や公園整備など個別計画を別途作るべきと何度も、提案するが、反応はにぶい。その一方で、前市長の提案していた、キッズライブラリーは、小松市長は、財政状況を確認の上、新設にこだわらず、視聴のみでなく、親子が1日遊べる子育てセンターを目指すとのお話だった。

しかし、名称が「こども図書館」になり、アセットを待たず、文化体育館計画を飛び越えて動いている。こども図書館に頭から反対しているのではないが、整備内容も財源も不明確の今、先行するのではなく、特例債に何を当てるかの計画を決め、市民の選択も反映する形で大型事業を進めたい。

27年残	庁舎	5年間分	不足
55	-35	-50	=△30

H27	H28	H29	H30
用地取得	本体工事 → 本体工事		
基本設計 → 実施設計	外構工事	(解体)	

項目	費用
用地費	6億8
本体工事費	30億
付帯・外構工事	3億1
設計・監理・調査	1億4
(解体)	1億
合計	42億4

新庁舎と現庁舎

私は、議員で作る、庁舎問題の検討委員会に入っていないので、委員から、口伝えに概要を聞く程度で、今一つぴんと来ていなかった。そこで、調べると、庁舎の内容は、書類として出していないが、市民に公表する為に、すでに昨年の5月に、インターネットのホームページに、出してあったことだが、逆に市民に情報が届いてないと思いき、急ぎ伝えたい。

まず、新庁舎予定地は、元農協支所と北側の蒲池医院や民家の一部も含まれ、新幹線用地に隣接。具体的、スケジュールや建設費用左図の様になっている。

【現庁舎の今後】

市民の方は、意外と、新庁舎より、現庁舎の活用や、跡地利用への関心が高い。新本庁舎は、市職員さんが使うのが前提で、現庁舎の再利用の中で、市民団体の活動拠点に無料で使えないかとの思いがあるのではと思われ、今議会、再利用について、質問したが、答えは、耐震の観点から、全面解体するとの答え。解体後の利用については、議会の特別委員会と今後相談して行くとの話。これまでに、中央公園整備や、まちなか広場の一体的利用も進めてきた地域であり、活用が売却かの早期の決断も必要。

私は、公園を生かして、それこそ、子育てセンターにも適地と思う。

児童クラブ延長 土曜日の自校実施へ

H28年1月より、放課後児童クラブの実施時間が、午後6時から午後7時に、1時間延長になった。私自身、もう何年も提案して来たが、やっと実現した。

一方、利用料金が、月2千円から3千円に値上げされる。市の説明では、時間延長で経費が増大すること、他市に比較し、もともと安く、今回の値上げでも、中間より低い方に押えたとの事で、納得はできる。

一方、1時間延長が決定する前に、武雄小で、延長への意見を保護者に聞き取りをしていた時、延長より、先に、土曜日が、御船小と合同で不便で、延長の前に、土曜日の自校での実施が、先ではとの声が何人もあった。そこで12月議会でも質問。市の答えは、希望のある学校は、土曜自校実施をするとの話。

図書館の充実へ動く

当初の民間移譲への期待であったCD・DVDの充実が、逆にツタヤに委託して、5棚が2棚に減少していた。市民の中には、「ツタヤが有料で貸しているの、その営業を優先して、CD等を意図的にコーナーを縮小している」との見方もあった。私自身は、子どもコーナー縮小、蘭学館を廃止した事や不透明な契約については良しとしないが、民間委託自体は賛成。

ただ、当初の約束は実行してほしい。今議会、一般質問でCD等の充実を求めた。答弁は実施するとの答えでほぼとした。

ちなみに、昔は、図書館での利用制限が多く、聞きたいCDなど入荷がなかったが、今回著作権を調べると、ほぼ、すべてのCD・DVDが新品・中古でも、無料なら貸し出せる事が判り充実を期待。(今年度はまだ1枚の購入もない)

地方創生とスター戦略

安倍政権の地方創生の流れは、各自自治体に、「人・まち・しごと」創生本部を立ち上げさせ、そこで「地域総合戦略」を自ら作らせ、アイデアや意欲のある自治体を支援して地域を活性化するのが。武雄市も、小松市長の初仕事として、各地で、対話集会などを開く一方、佐大教授などと産・学・官等の行政推進懇談会など開催された。そこで、企業誘致から健康増進まで、あらゆる課題が網羅された。その大綱目が、①仕事所得 ②子育て教育 ③生涯健康 ④誘客定住 ⑤地域・環境の5つあり、5角形↓星形と見て「もつと輝くスター戦略」と命名されていて、ここを知らない、スター戦略って、何んの事や?との話になってしまふので解説。

ただ、私は、5年間で、しかも市の総合計画と同様の広い計画を作っても、実現できないので、重点を絞って行くべきと提案。

しかし、本音の実体は、国の各省庁から、地方創生がらみの補助金や交付金が下りてきた場合、受け皿としての計画を持っていないとチャンスががすので、網羅しているらしく、市の職員が原因でなく、政府の制度に問題がある。

H27年度は、H26年度の繰り越しで、地方創生といながら、全国的にプレミアム商品券や旅行券の発売等が中心。また、今H27年度末に、H28年度に繰り越しで活用する、地方創生の交付金が出るのではないかと話。ただ、ソフト事業やユニーク事業が中心で、工業団地を作る金や住宅地造成などの大規模なハード事業はなく、どんなメニューが出るか省庁まかせ。石破大臣の影が薄いのもここが原因か?

北方中央地区 開発と道路整備

【北方中央地区開発】

いよいよ北方中央の開発が始まりそう。地区的には、高野(こや)の国道34号線の南で、ダイレックスの裏といったのが解りやすいと思う。農地を宅地開発する為の申請が出て、14戸の住宅が建設される予定と言う。

元々、ここは、農振地で開発できない地区だった。合併と同時に、北方中央線と言う市道を東西に通し将来の優良住宅地の創出をめざすとして約1億円で整備済み。

その後、しばらく、市としての具体的な施策がなかった。そこで、私は、都市計画区域に設定し開発を動かして欲しいと提案。

その後、地元の農業者が、土地利用を明確にすべきと市に意見。そこで、中央線の北側の水田が、農振地より除外され今日の開発に。

一方、市は、ダイレックスと開発地の間に東西に、農道があり、それを市道化して140m整備する。

ただ、ここは、常襲水害地なので、宅地側も、市道も、約80センチ程度、土地を高める方針で、将来的にも優良な宅地を考えた対応。

【北方バイパス3案】

H29年度には、武雄バイパスで国の買収済みだった農地に、道路の整備が完成し、北方中央線と直結し、大崎の渋滞の緩和が進む。

ただ、中央線の先が未整備で、効果が十分に発揮できない。

また、国は、中央線に直進せず眼鏡市場の所の交差点に、逆Z型に出ても問題ないとの方針。

そこで、私が、北方中央線からダイレックス方面に連結道の整備を何度も提案しているが反応は今のうち。

ただ、市も、昨年秋頃から、変化し、市独自のルート案を出すという方針だった。

12月議会で、北方町の議員から北方町まちづくり協議会で、3案



【二段階整備とは!】

今議会、急に多くの議員が、逆Z型通交の対策へ質問があった。私としては、嬉しい状況だが、他議員は、武雄バイパス延伸の考え方。しかし、現工区より先は、新規に、北方バイパスとしての認可や予算付けが必要で、また現、中央線に、10トトラックを通すには耐久的に難しく改良も必要で、10年計画になりH29年活用は無理。

◎そこで、私の提案は、2段階整備で、国に将来の北方バイパス整備を求めつつ、緊急的に、普通車をダイレックス方面にむかわせる連結道を武雄市で整備し、1日も早い渋滞解消を望む。

新幹線フル無しリレーに賛成 今後は快速発着を提案

前回の栄八通信62号の、新幹線トンネル案の私算の中の記述で、長崎県の整備区間を67キロと書いていたが、佐賀県内の嬉野武雄間のフル整備区間も含んでの距離でした。(訂正とおわび)

ただ、論旨の、私のトンネル試案の県の負担の約550億円に変化なし。

通信62号発行後に、長崎新幹線の開業遅れなどの国交省等からの発表があり、急に論議が加熱。やはり、リレー方式が、現実的との見方は当たっていた。

一方、リレー方式の後に、ミニ新幹線を望むと記述したが、今回主張を一度撤回します。その理由は、リレー方式を、「佐賀県内のフル規格化へ結び付ける案」と混同される可能性があるからです。

私は、国の示すような、フリーゲージ車を1日1~2回転送し、他は特急のリレーでの案に賛成。その理由は、多くは費用の少ない特急のリレーが良いが、フリーゲージ実証車の2両も、これまで400億円以上の開発費をかけている事や、話題性から走らせたが得策と思う。

私がなぜ、全線フル規格に否定的かは、10年以上前、佐賀県と鹿島市の討論会を数回傍聴した。県は国の試算を示し、費用対効果(ベネフィット)が、フル規格は0.8で無く、フリーゲージ方式で1.1あると説明し、新幹線整備にメリットがないと主張する鹿島市をフリーゲージ方式で論破してきたので説明根拠が崩壊し責任が問われる様な転換を県は取れないと考える。

一方、国が、フリーゲージ車の開発の遅れで、量産化が遅れると言うが、私の考えでは、国もあわてて不完全な中、量産しても、利用者数が少ない場合、他の電車と違い、転用ができる場所がなく、無駄になる可能性があるから、様子を見ようとしているのではないかと。

ウエルカム武雄ハウスの内容

太陽光村の断念に変わる、周辺の定住・移住促進策として公営住宅のない5町へ、民間事業者が住宅を建て賃貸する場合に市が補助する制度。9月議会で、12月に内容を公表するとの話だったがいきなり内容を聞く前に、補助金3840万円の予算案が出た。(十分な議論できず!)

たぶん、教育移住者の住宅を新学期までに整備したいと思われる。

具体的には、5町中の2町実施。若木町は、大楠近くの空家を解体して、1戸建を2戸建設予定。武内町は、旧公民館を解体し、そこに、アパート(4世帯)を作る計画との話し。実施業者は公募ではなく、また場所も、各町のまちづくり協議会の、推薦した提案を尊重する方針。また用地は、市が無償で貸し、建築費の1/2も市が負担する。家賃は2LDKで3万5千円。

なぜ車止め 武雄小北校門

教室・体育館を全面改築した武雄小。私が、なぜこだわるかの理由は、もともと、武雄小と御船小の学校分離の時、児童数をほぼ均等に分けるとの話だった。

しかし、近年は、御船小が2倍程度に差が拡大している。

そこで、10年以上前から、通学区の見直しや、隣接区からの校区自由化など、両校の児童平均化を、教委に求めると共に、提案もして来たが、進展せず。

そこで、私は、別の方法での問題解決を考えた。それが、学校の整備の問題で、児童数の差拡大の要因の一つとして、昭和30年代の体育館などの施設整備状況に差がある事。そこで、今回の改築で使いやすい、また北部市街地のまちづくりや防災の拠点化を要求。今回、建物等は一新されたが、元々、自家用車のない時代からの

学校の立地場所であり、これだけ送り迎えを必要とする時代には、一定の周辺交通インフラの整備をし、利便性を向上する必要がある。

そんな中、北校門からの車の侵入を禁止するとの話。

前市長の時も、市民や、他議員からの、武雄保育園の横の道路改良の要望があり、着手する答弁。また、保育園の移転後は、北校門を改良して入口を整備するとの答弁だった。当然、送迎などの車の安全を確保する為の改良との認識だった。そこで話が違ってしまう。一方、南校門については、離合できるように拡張するとの事だが学校分離して、児童はほぼ北側に居住しているため、北門の車輛通交は利便性や防災の面からも必要。

競輪場の改築状況

御船ヶ丘梅林の道の途中から見ると競輪場の解体状況が一望できる。現在ほぼ解体済みで、今年、10月に完成し、11月に記念レースを予定している。

今議会、「機械設備」や「電気工事」それに「ナイター設備」の各1億8千万円程度の計約5億5千万円を議決した。すでに着手している走路などの合せて、約15億円を発売。

後は、備品やテレビモニターなど3億円の総額は18億円程度と見込まれる。現在競輪場会計の基金が、12億円ある。私の考えでは、8億円を基金から入れ、残り10億円を、銀行や水道会計から借り入れ、年1億円ずつ、10年で払う形で行けると思う。

一般会計からの繰り入れなどせず、自立しての運営が大切。

六角川調整池の動向

西川登から、有明海に蛇行しながら流れ込む六角川。橋町。対策として、川に隣接する、大坪石材様の、採石場を大水の時に一時的な貯水池にし水害を防ごうという計画。前市長が、国の30年計画に提案して採用された。

ただ、事前に、地権者や、現在操業としている大坪石材様に十分な説明や了解を得ずに提案した為、実現の見透しは不透明な状況。

現在の動きとしては、国の河川事務所から、用地の筆界未定(所有者や土地の境界が不明)の、60筆(箇所)の確定を求められていて、市が、作業に着手したが、1ヶ所数年かかる事もあり、10年以上の長期戦になる可能性もある。

一方、大坪石材様も、現状では採掘許可をH28年より5年間の更新される可能性も高い。